# 京都大学人文科学研究所国際研究ミーティング実施報告書

1. 国際研究ミーティングの名称
初期仏教の学際的研究

2. 主宰責任者氏名
外村　中（ドイツ・ヴュルツブルク大学・上級講師）

3. 開催日時等およびプログラム（講演者名または報告者名を明記してください）
日時：2019 年 3 月 12 日　14:00～17:00
場所：京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室
演題等：シャカの入滅年について：シャカムニとアショーカ王とカニシュカ王に関する歴史情報の相関分析
講演者または報告者：外村中　（ヴュルツブルク大学・上級講師）

4. 概要（400 字程度）
シャカの入滅年については、いわゆる北伝をとるべきかいわゆる南伝をとるべきか多くの研究者によって議論が続けられている。本国際研究ミーティングにおいては、シャカの入滅年に関する情報を、アショーカ王の即位年およびカニシュカ王の即位年と相関分析してみると、近年の有力な説がしめすところとは異なる解釈が成立する可能性があるとする発表がなされた。北伝も南伝も実のところはともにアショーカ王の即位年はシャカの入滅後百年（正確には 100 年が経過した 101 年目）とする歴史（あるいは本来の情報）にもとづくものらしく、いずれをとっても、シャカの入滅年は共通暦紀元前 368 年頃になるとする新たな解釈がしめされた。会場には、東アジアを専門とする研究者から、中央アジアさらには南アジアを専門とする研究者までもが集まり、上記解釈に関して学際的な質疑が活発におこなわれ、ドイツ、アメリカ、中国からの研究者も参加した国際的なミーティングとなった。

5. 参加者（別紙「参加状況」も記載してください。）
**学外**
外村中（ヴュルツブルク大学・上級講師）、榎本文雄（大阪大学大学院）、藤岡穣（大阪大学大学院）、佐藤優（大阪大学大学院）、黄盼（京都府立大学大学院）、岩井俊平（龍谷大学（龍谷ミュージアム））、西谷功（泉涌寺宝物館）、中安真理（同志社大学）、久野美樹（法政大学（非））、瀧朝子（大和文華館）、重田みち（京都造形芸術大学（非））、シビル・ギルモンド（ヴュルツブルク大学）、リサ・コチンスキー（南カリフォルニア大学）、ベッティーナ・ゴーシュ（関西大学東アジア研究センター）
**学内**
内記理（文化財総合研究センター）、折山桂子（京都大学大学院）、木村整民（京都大学大学院）、岡崎清子
**所内**
岡村秀典、船山徹、安岡孝一、稲本泰生、古勝隆一、向井佑介、高井たかね、宮本亮一、王星、安岡素子、

6.助成金の使途等
旅費（滞在費）として使用

7.その他（成果や今後の展開等、自由に記載してください）
本国際研究ミーティングの成果は、適切な時期に公表する予定である。今後の展開としては、シャカの入滅年が共通暦紀元前 368 年頃であるとすれば、入滅後「後五百歳」入りの年は後 133 年頃ということになる。（それが有効であるかどうかは別にしても）このような具体的な年が設定できるので、「後五百歳」に関連することを記す大乗仏教の根本経典である『般若経』や『法華経』さらには「七百歳」に言及する『大乗涅槃経』などの内容のより正確な分析、また、大乗仏教との関連も説かれてはいるものの、いまだ詳しくは明らかになっていないインドにおける仏像仏画の成立期から流行初期についての考察などにおいて、新たな視点からのアプローチが可能となる。今回のミーティングの主宰責任者が班長をつとめることになった人文研《「見えるもの」や「見えないもの」に関わる東アジアの文物や芸術についての学際的な研究》共同研究班においても、インドとの関連あるいは比較を通しての検討を試みる時に、今回の成果は大いに活用できるものと考えている。